

知床岬地区における携帯電話基地局整備について

1. 経緯

- 令和4年4月に発生した観光船沈没事故を契機とし、斜里町及び羅臼町が、知床半島の通信環境の改善を国（総務省、環境省など）に要望。
- 令和5年4月に知床半島地域通信基盤強化連携推進会議（国、北海道、斜里町、羅臼町、漁協、観光協会、自治会及びまちづくり団体等）を開催し、携帯電話の通信環境改善に連携して取り組むことを宣言。
- 以後検討を進め、令和6年4月の連携推進会議において、既存のウトロ局の出力増強、知床五湖基地局、知床岬基地局、ニカリウス基地局の取組状況が報告された。

2. 知床岬基地局の整備について

- 令和6年3月に自然公園法に基づく許可。
 - ※漁業者をはじめとする知床半島先端部の利用者等の安全確保という公益性を認めた上で、自然環境への影響を軽減する措置が取られていることを確認し、やむを得ないものとして許可
- 5月の連休明けから、資材、機材を知床岬の文吉湾に搬入。
- 5月に知床世界自然遺産地域科学委員会の委員より、オジロワシの繁殖への影響を懸念する指摘。
- 5月23日に専門家の協力のもと、環境省及び事業者でオジロワシの営巣と繁殖状況調査を実施。その結果、工事予定地近くにある営巣実績木については、現在、使用されていないことを確認。

3. 知床世界自然遺産地域科学委員会（6月7日、札幌市内で開催）

- 科学委員会からは次の助言があった。
 - ①希少植物やオジロワシを含め、環境及び生態系調査が不十分であり、顕著で普遍的な価値（OUV）への影響を判断することはできない。
このため、工事を一時中断して調査を実施し、改めて影響を評価すべき。
 - ②科学委員会が助言する役割には無いものの、携帯電話基地局整備の必要性について、地域で検討してほしい。

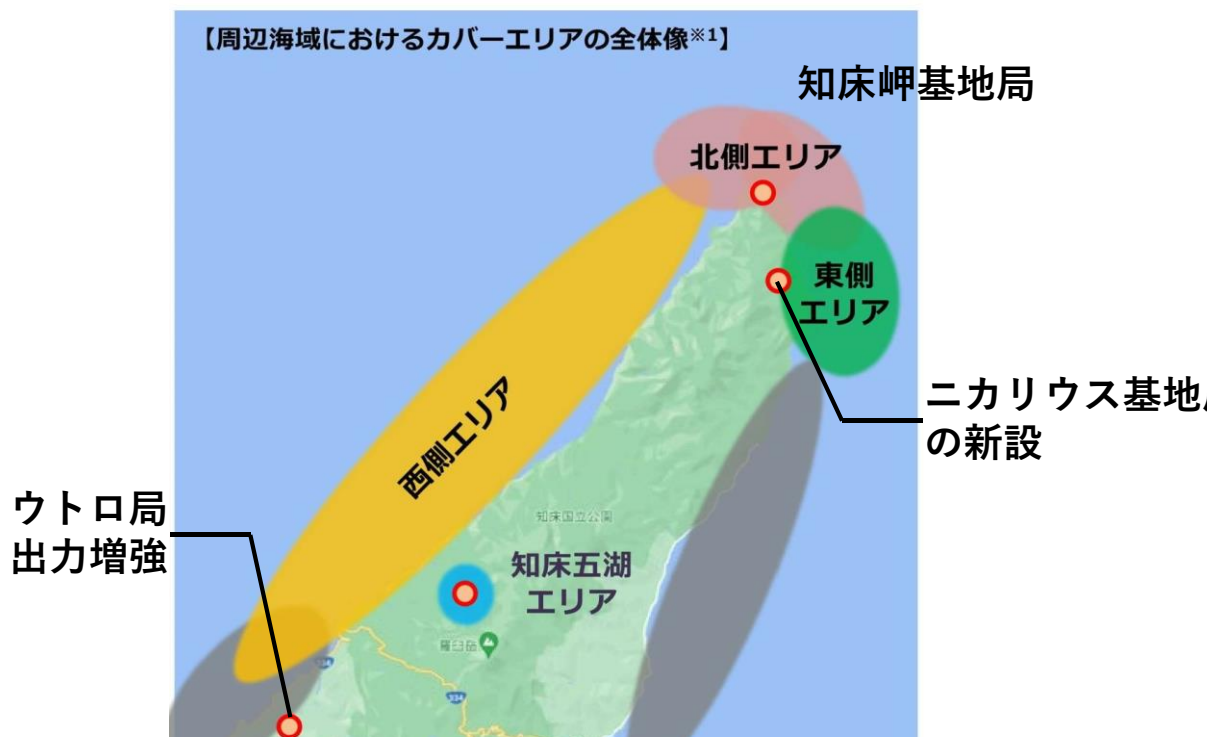
4. 今後の対応

- 科学委員会からの助言を踏まえ、今後実施する調査の時期及び内容等を検討中。
 - <植生に関する助言>
 - ・希少種に配慮した工事を行うのであれば、現状の植生図は粗すぎるため、より詳細な植生図をもとに設置機材の配置を決める必要がある。
 - ・草刈り時に希少種に気をつけるだけでなく、土壌の掘り起こしが植生に与える影響や急斜面での土壌浸食が起こる可能性もあり、工事影響を追跡調査していく観点が必要。
 - ・工事後の管理体制も大きく関係する。ササ群落の刈り払いにより裸地が出来ると帰化植物が入り植生が変わっていく可能性がある。

【参考 1】 携帯電話基地局の整備概要（位置図）

※KDDI、ドコモ、ソフトバンク、楽天の 4 者のアンテナを整備

【整備後】



【参考 2】 知床岬における携帯電話基地局の整備概要

